

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	◎	旅行代理店（従業員）	・夏の観光繁忙期を迎えていることから、今後も国内客、外国人観光客の増加を期待できる。一方、国際線の運航において、サプライチェーンの人手不足などにより、航空燃料を確保できず、新規路線の就航やチャーター便の運航に支障が生じている事態が顕在化しているが、国を中心に対応策が検討されていることから、今後、状況が改善すると期待できる。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	・天候に恵まれたこと、大型客船の寄港が2回あったこと、周辺観光地を訪れている欧米客の来店が増えたこと、地元の主要イベントの日程が重なったことなどから、7月の景気はやや良かった。今後についても、アジアからの観光客の入込に期待できる。ただし、観光地以外ではシャッターが目立つようになるなど、今後に向けての懸念もある。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	・今年に入ってから売上に力強さが戻っており、今後もこうした流れは続くことになる。
	○	スーパー（店長）	・現在の好調な動向が今後も続き、旅行需要や冬物衣料への積極的な支出につながると期待している。
	○	衣料品専門店（エリア担当）	・この夏の人流はコロナ禍前に匹敵するほどだった。今後は、旅行需要なども一段落し、支出が衣料品に向かうことが期待できる。
	○	自動車備品販売店（店長）	・報道がパリオリンピック中心となり、政治経済の話題が少なくなっている。物価高や円安などの言葉も余り出ていないことから、オリンピックで盛り上がっているイメージが消費にも影響するようになり、景気が上向くことになる。
	○	住関連専門店（役員）	・以前と比べると、買い控えの雰囲気や和らいでいるため、これから消費が上向くことになる。
	○	高級レストラン（スタッフ）	・年度末になると、今と客層が変わってくるが、様々な対策を行うことで落ち込みがないように推移すると期待している。
	○	旅行代理店（従業員）	・電話やメールでの問合せ件数が、前月から好調に推移しているため、今後の景気はやや良くなる。
	○	タクシー運転手	・夏を迎えて、道外客の入込が増えており、今後も好調に推移するとみられる。コロナ禍前の水準に回復するまでは、もう少し時間を要するとみられるが、今後、景気はやや良くなると期待している。
	○	観光名所（従業員）	・外国人観光客の入込も、当施設の利用者も、これまでの勢いに陰りはみられない。また、アニメの聖地巡礼も秋までは続くと思われる。これらのことから、今後の景気はやや良くなる。
	○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・秋頃にツアーが増加するという情報があるため、今後の景気はやや良くなる。実際に予約数も伸びている。
	□	商店街（代表者）	・物価高が続くなか、実質賃金が上昇して可処分所得が増えない限り、消費は上向かない。
	□	商店街（代表者）	・不景気感が漂うなか、大きなイベントや大会なども予定されていないため、観光客の増加は期待できない。そのため、中心部に足を運ぶ客は、近隣住民以外はほとんどいないと考えられる。また、中心部のイベントとして行われている歩行者天国も終了している時期であることから、日曜の来街者も少なくなる。これらのことから、今後も景気は厳しいまま変わらない。
□	商店街（代表者）	・秋の観光シーズンまで北海道は好調なまま推移する。外国人観光客も、決して数が多いわけではないが、順調に推移している。ただし、ホテルの宿泊費が高く、繁忙期を過ぎても価格が低下せず、今後に向けて心配な面もある。	
□	百貨店（売場主任）	・当面、現状のトレンドを左右するような大きな要因は見当たらないため、今後も景気は変わらない。	

<input type="checkbox"/>	百貨店（販売促進担当）	・一時期に比べれば、円安が落ち着きつつあるものの、外国人観光客の入込に影響を及ぼすほどではないため、今後しばらくは外国人観光客の消費は拡大することになる。一方、国内客については、物価高の影響で購買意欲が低下しており、こうした状況はしばらく続くことになると見込まれる。これらのことから、全体的な景気は今後も余り変わらないまま推移する。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・秋口以降も大きな値上げが予定されているため、今後も現状と変わらないまま推移する。
<input type="checkbox"/>	スーパー（企画担当）	・円安による原材料価格の高騰は一段落するとみられるが、輸送費や人件費などのコスト転嫁が始まっていることから、仕入価格は依然として高止まりすると見込まれる。そのため、今後の景気は現状のままで推移する。
<input type="checkbox"/>	スーパー（役員）	・米の値上がりは1年以上続くことが見込まれる。米の価格が客に与える影響は大きいと見込まれる。そのため、今後の景気は現状のままで推移する。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・今後も客がより値頃感のある商品を買いたい傾向が続くとみられる。酒やたばこなどの嗜好品は売上の減少が続くとみられるが、食品への支出は抑えられるものではないため、景気は今後も変わらないまま推移する。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・夏場は気温の高い日が続くことで、店舗の来客数、売上が増加する傾向があり、7月は売上が比較的好調に推移している。8月も同様に好調に推移するとみられるが、9月以降は、春先のような悪い流れに戻ってしまうことが懸念される。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	・大手自動車メーカーの不正問題が解決しない限り、今後も景気は変わらない。裾野の広い自動車業界における経済的ダメージは大きい。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・例年、夏場は需要の落ち込む時期であるため、これから若干上向くことになる。サービス部門についても、リコールの影響が落ち着くことで、盛り返してくることになる。そのため、全体的な景気は多少良くなる。ただし、大幅に上向くことまでは考えにくい。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・イベントを開催すると、前年よりも多くの客が来場するが、販売にはなかなかつながらない。先行きを見通せない状況にあることで、購入を決断できない客も多いことから、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・今後について、受注量が大きく増えるような新型車の発表もないため、景気は変わらないまま推移する。
<input type="checkbox"/>	その他専門店〔造花〕（店長）	・例年であれば、季節商材の切り替わりに伴って、需要に盛り上がりが見られるようになるが、これまでの動きをみると、今後には余り期待は持てない。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	・先行きについては、見通しにくい。世の中の環境が変化していることは理解しているが、物価高や電気料金の上昇に伴って、地元客の外食意欲がじわじわと落ち込んでいるなか、最低賃金の大幅な引上げが示されたことから、中小規模の飲食店にとって厳しい環境となることが見込まれる。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	・観光シーズンに入り、来客数及び販売量のピークを迎えている。秋の紅葉シーズンまでは好調な状況が続くとみられるため、今後の景気について、大きな変動はないとみられる。
<input type="checkbox"/>	スナック（経営者）	・今後について、余り期待を持っていないため、景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	観光型ホテル（経営者）	・インバウンドは、グランドハンドリングの人材不足と航空燃料不足により、国際線の増便が見通せず、道内空港への誘致ができない状況にあり、集客が大きく減少している。そのため、秋までの集客状況は、現状と大きく変わらないとみられる。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	・現状、物価高や人手不足、オーバーツーリズムなど、余りプラスになるような材料がない。景気回復の兆しがみられないことから、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	・法人の団体旅行については、今後も悪い状態が続くとみられる。海外旅行については、円安、物価高、燃油高による需要の落ち込みがみられており、国内旅行については、経費を削減する傾向があり、社員旅行などを控える状況が見込まれる。また、インバウンドが増加している一方で、国内の旅行会社はその利益を享受できていないこともマイナスである。

□	タクシー運転手	・気温が高くなると、タクシーの利用が増える傾向がある。今年も前年並みに暑い日が続くそうなので、タクシー1台当たりの売上は前年並みとなるが見込まれる。乗務員が増えて、タクシーの稼働台数が増えていることもあって、会社の売上は前年よりも増えると期待している。
□	タクシー運転手	・今後については、夏のイベント開催といったプラス要因もあるものの、予約状況が目立って上向いている様子はないため、現状維持が続くとみられる。
□	タクシー運転手	・今後も気温の高い日が続くと見込まれるため、今後については、余り期待できない。
□	通信会社（企画担当）	・毎年秋に発売される話題の通信端末に対する期待は大きいものの、円安の影響で通信端末の価格が大きく上昇しており、買い控えも発生していることから、当面は現状と同様の状況が続くことになる。
□	美容室（経営者）	・今後について、何か大きな変動要因がない限り、消費者が出費を控える傾向が継続するとみられる。特に年金生活者においては、そうした傾向が顕著に表れている。
□	住宅販売会社（経営者）	・観光産業は景気がとても良いようであるが、消費や住宅建築までその効果が波及してこない状況にある。木材や建材の価格が高騰していることもあって、今後も住宅建築は進まないとみられる。
□	住宅販売会社（従業員）	・建築コストの高騰はしばらく続くことが見込まれるため、今後も厳しいまま変わらない。長期金利の動向により、住宅ローン金利が上がる懸念があることもマイナスである。
▲	商店街（代表者）	・景気が少しでも上向くような要因があれば良いが、客の様子から、そうした要因はうかがえないため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	一般小売店（経営者）	・為替などに急な変動があると、全体が混乱し、商売にも大きな影響が生じることになる。今後についても、そうした懸念があることから、景気はやや悪くなる。
▲	スーパー（店長）	・物価高の割に、賃金がそれほど上がっている雰囲気がないため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	スーパー（企画担当）	・円安による物価高がなかなか収まらず、給与の手取り額も目に見えて増えていない状況にあるため、お盆明け以降、消費が一気に冷え込むことが見込まれる。
▲	コンビニ（エリア担当）	・夏の暑さでエアコンの使用が増え、電気料金の負担が増えることに加えて、夏休みで金を使う機会も増えることから、今後、客の節約意識が高まることになる。
▲	コンビニ（エリア担当）	・水産庁の発表によると、今年もサンマの来遊量が低水準となる見込みのため、景気はやや悪くなる。
▲	家電量販店（経営者）	・好調をけん引していたエアコンの需要が落ち着くとみられることから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	家電量販店（店員）	・エアコン特需が終わり、白物家電の動きも悪い。今後については、暖房機器の販売で多少はプラスとなるが、エアコンほど売れるものではないため、景気はやや悪くなる。
▲	乗用車販売店（経営者）	・物価高の影響で個人消費が停滞しているため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	その他専門店 [医薬品]（経営者）	・当店にとって、景気は余り良くない状況にある。唯一の希望であった調剤部門も、異業種からの参入、電子化の進展などにより、零細企業を取り巻く環境が厳しくなっている。
▲	観光型ホテル（スタッフ）	・夏以降の宿泊予約の伸びが今一つであるため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	美容室（経営者）	・最低賃金の引上げが見込まれることから、今後、インフレ化がますます進むことになり、厳しい経営環境となるが見込まれる。
×	スーパー（店長）	・値上げの動きは11月頃まで落ち着かないとみられるため、今後の景気はやや悪くなる。
×	スーパー（店長）	・今後については、冬を控えて、灯油などの暖房費に消費が向かうようになるため、客の購買動向は落ち込むことになる。
×	衣料品専門店（経営者）	・円安に歯止めをかけるため、現在の金融緩和政策を大きく転換するような対策が行われない限り、今後の景気は悪くなる。

	×	衣料品専門店（店長）	・例年であれば、先物への問合せが増えてくる時期であるが、今年は問合せがほとんどみられないため、今後の景気は悪くなる。衣替えのシーズンまでに状況が改善してくれると良いが、質の高いスーツにこだわる客は世界情勢や為替に敏感なことが多いため、余り期待できない。
	×	タクシー運転手	・北海道も本州と変わらない猛暑となってきた。北海道の住民は猛暑になると、活動を控える傾向があるため、今後の景気は悪くなる。
	×	住宅販売会社（経営者）	・物価の上昇率と比べて、所得の増加率が低いことから、客の購買力が落ちている。一部の富裕層を除くと、客は現在の生活を維持することに金を振り向けており、住宅の買換えなどは手控えられている。こうした傾向は、今後ますます強まるとみられることから、景気は悪くなる。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	農林水産業（経営者）	・9月以降、青果物の収穫最盛期を迎えるため、今後の景気は良くなる。
	○	食料品製造業（従業員）	・卸売業者に対して、状況に応じた取引条件を提示するようにした。それにより、販売量が伸びてきていることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	家具製造業（経営者）	・ボーナスが増えることで、個人消費が上向くことを期待している。
	○	通信業（営業担当）	・観光客などの人流が増えていることで、関連産業では景況感の改善が続いている。これまでにない規模の企業進出による効果も今後ますます拡大するとみられることから、先々の景況感は上向くことになる。
	○	金融業（従業員）	・エネルギー価格の高騰に対する国の支援や金融政策の修正により、今後、物価の上昇が緩やかになり、実質賃金がプラスに転換することが見込まれる。それに伴って、消費者マインドの改善が期待できるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	司法書士	・現在の受注量や同業者の様子から、古い相続の掘り起こしを含めた相続登記や派生する業務の受注が引き続き期待できる。また、企業の不動産取引、新築案件の受注も引き続き期待できる。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・今後も国内の建設投資が堅調に推移することが見込まれる。
	□	金属製品製造業（従業員）	・今後、新築戸建て住宅の着工が増加するような兆しが全くみえないことから、景気は変わらないまま推移する。
	□	建設業（経営者）	・手持ち工事量は、今後もほぼ横ばいで推移するとみられる。一方、秋になって徐々に人手不足が顕在化することが懸念される。また、農業基盤整備などの土木工事では天候が進捗に大きく影響することになるため、積雪寒冷期までにどれだけ工事が進捗するかが課題となってくる。
	□	建設業（従業員）	・案件の減少に加えて、施工者不足による工事費の上昇が加速することが懸念される。ただし、実際に影響が出てくるのは半年以上先とみられるため、今後も景気は変わらない。
	□	建設業（役員）	・上半期は順調に推移する見通しであることに変わりはない。今後は、年度後半に向けて、収益性の高い工事案件の受注活動に注力していくことになる。
	□	輸送業（支店長）	・国内移送貨物について、夏場需要で見込みどおりの動きとなっており、今後も貨物量は維持できるとみられる。ただし、大型スポット案件などの引き合いが今一つなことから、貨物量が更に増えることまでは考えにくい。
	□	広告代理店（従業員）	・現状、景気が良いわけではないものの、底打ち感があるため、今後も景気は変わらないまま推移する。
	□	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・人手を増やすことができないため、今後も景気は変わらない。
□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・一部の客先では、設備投資や設備の入替えに伴う需要が生じているが、全体的な仕事量は減っている。今後、客先からの需要は2極化していくとみられる。	
	▲	食料品製造業（従業員）	・値上げの影響で、小売店での売上が落ち込んでおり、小売店が販売を取りやめる動きが出てきている。そのため、受注量が更に減る見込みである。

	▲	司法書士	・円安の影響で物価の上昇が続いており、国による対策も効果がそれほどみられない。物価の上昇は今後も続くとみられるため、景気はやや悪くなる。
	×	—	—
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	・企業における求人ニーズは引き続き高く、業績拡大への意欲が伝わってくることから、今後の景気はやや良くなる。ただし、登録者の転職に対するモチベーションに一貫性が感じられないことから、企業とのマッチングが進まない懸念がある。今後の景気回復に向けての不安材料である。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	・前年の第3四半期から求人募集が減少し始めたため、そろそろ底を打つとみられる。そのため、景気はやや良くなる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・全体的に求職者の年齢層が高まっている。特に農作業に付随する収穫や選別作業は、応募者の平均年齢が60歳前後まで上昇するなど、ミドルからシニアにシフトしている。現場での人材不足が景気回復に向けての妨げとなっており、今後も現状維持が続くことになる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・最低賃金について、時給で50円アップとする大幅改定が報道された。現状より景気が良くなる要素が見当たらない。
	□	職業安定所（職員）	・当地における有効求人数は15か月連続で前年を下回っている。産業や業種によってその度合いは異なっているものの、今後の物価上昇の状況によっては、経済活動、消費行動が先を見通せない状態となることも懸念される。
	□	職業安定所（職員）	・新規求職申込件数、新規求人数ともに、減少している。一方、企業からは、業績が堅調であり、人員も確保できていることから、当面募集予定はないという声が多く聞かれるなど、求人数の減少が景気の悪化に直結しているとはいえない状況にある。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・今後の採用状況について、急激な変化が出てくるとは考えにくい。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	・若干円高の動きもみられているが、海外との商取引を行っていない企業にとって、現在の円相場の水準は、物価高や資源価格高騰などによるマイナスの影響が大きくなっている。今後も、地場中小企業にとって厳しい状況が続くとみられる。
	▲	職業安定所（職員）	・管内の新規求職件数は6か月ぶりに前年を下回り、新規求人数は2か月ぶりに前年を下回った。このため、今後の景気はやや悪くなる。
	×	—	—